

音楽科学習指導案

題材名「詩と音楽との関わりに着目して、楽曲のよさや美しさを味わおう」

〔学指要領：B 鑑賞(1)ア(7)、イ(7)、共通事項(1)ア〕

令和〇年〇月〇日(〇) 第〇校時 音楽室

〇〇立〇〇中学校 1年〇組 指導者 〇〇 〇〇

I 題材の構想

1 題材の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	・「春」の曲想と音楽の構造や詩が表す内容との関わりについて理解する。	・音や音楽から感受したことを、簡単な言葉で伝えることはできるが、その根拠となる、音楽を形づくっている要素の働きについての理解は十分ではない。
思考力、判断力、表現力等	・「春」の音色、旋律、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対して自分なりに評価しながら、「春」のよさや美しさを味わって聴く。	・音楽を聴いて印象に残ったところを何度も聴き返すなど、音楽のよさや美しさについて自分なりに判断しながら聴いているが、その理由について、音や音楽から気付いたことを基に考え、説明することを苦手としている生徒も見られる。
学びに向かう力、人間性等	・「春」の詩が表す情景及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、ヴァイオリンと弦楽合奏のための協奏曲に親しむ態度を養う。	・曲を聴いて感受したことを伝え合い、意見交流するなど、他者との協働的な学習を積み重ねることで、多様な感じ方や聴き方に気づき、それらを受容する態度が育ちつつある生徒が多い。

2 評価規準

知識・技能	・「春」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。
思考・判断・表現	・「春」の音色、旋律、形式などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。
主体的に学習に取り組む態度	・「春」の詩が表す情景と音楽表現との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

3 指導及び評価、ICT 活用の計画（全3時間：本時第2時） ※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	主
1	・「春」の第1楽章の音色、旋律、テクスチュア、強弱、形式を知覚し、詩の内容や音楽から感受したイメージや情景との関わりについて気付いたことを話し合い、題材の課題を把握する。(あ) (a) 題材の課題 場面や情景を表す音楽の秘密を探って、「春」のおすすめ鑑賞ポイントを伝え合おう。	●		●
2	・詩と音楽との関わりを視点として、知覚したことと感受したことを関連付けながら第2、第3楽章を聴き、作曲者が曲に込めた工夫について話し合う。(い) (a) (b)		●	
3	・「春」のおすすめポイントを紹介する文を書いて伝え合い、音楽のよさや美しさを味わいながら全体を通して鑑賞し、学習全体の振り返りをする。(あ) (い) (b)			

*活用する学習支援ソフト等：(あ) Google Classroom (い) ロイロノート

*活用するコンテンツ等：(a) 「春」第1楽章演奏動画 (b) 「春」全楽章演奏動画

4 教材曲の価値

【教材曲】「春」－「和声と創意の試み」第1集「四季」から（ヴィヴァルディ作曲）

「春」は、ソネットと呼ばれる詩の内容に沿って曲をつけたものであるため、初めて弦楽協奏曲を学ぶ生徒たちにとって、曲想の変化が捉えやすく、さらに詩の内容を手掛かりとして、場面や情景を思い浮かべながら味わって聴くことができる楽曲である。また、知覚・感受したことを伝え合う活動の中で、音楽が表す情景を共有しながら、音楽から感じ取ったことの根拠について、音楽を形づくっている要素と関連付けて考えやすいため、音楽のよさや美しさを一層深く味わって聴く能力を養うことができる。

Ⅱ 本時の学習（2／3）

- ねらい 「春」の第2、第3楽章を第1楽章と比較して鑑賞し、詩と音楽との関わりを視点として、知覚したことと感受したことを関連付けながら話し合うことを通して、作曲者が曲に込めた工夫に気づき、曲のよさや美しさについて伝え合うことができるようにする。

2 展 開

【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動 主な発問 予想される生徒の反応【S】	○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1 「春」第1楽章を聴き、前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。（5分） <めあて> 情景と音楽の特徴との関わりに着目して第2楽章と第3楽章を聴き、作曲者の工夫を探ろう。 S：第1楽章では、5つのソネットを基に作曲されていた。第2、第3楽章も同じかな。	○リトルネッロ形式について想起できるように、Aの旋律を提示し、旋律が曲の中でどのように表れていたかについて問いかける。 【★提示・配布】 ○詩と音楽との関わりについて確認できるように、それぞれの旋律に対応するソネットを、曲の進行に合わせてカードで示すよう促す。 ○学習への興味・関心を高めるために、季節を伏せて第2、第3楽章の冒頭部分を聴くよう促す。
2 第1楽章と比較しながら第2、第3楽章を鑑賞する。（15分） 【★再生】 「第1楽章、第2楽章、第3楽章には、どのような共通点や違いがありますか。」 S：第2楽章はヴァイオリンの独奏がずっと続いていて、第1楽章と比べて速度がずいぶん遅いな。 S：第3楽章もリトルネッロ形式だね。場面は3回切り替わっているから、3つのソネットが基になっているのかな。	○各楽章の特徴について、第1楽章と比較しながら考えることができるように、印象に残った共通点や差異点を問いかける。 ○詩と音楽との関わりに着目しながら繰り返し鑑賞できるように、各楽章のソネットを提示し、聴き取った音楽の特徴に対応するソネットを見付けて結び付けるよう促す。 ○それぞれの楽章の音楽の特徴の違いに着目できるように、「変化」「対比」をキーワードに、気付いたことを整理するよう助言する。
3 グループで、知覚した音楽の特徴と感受した情景やイメージとの関わりについて考えたことを交流する。（20分） 【★共同編集】【★再生】 「ヴィヴァルディはソネットの情景を表すために、音や音楽にどんな工夫を仕掛けているでしょう。」 S：第2楽章は独奏ヴァイオリンの背後に聴こえる音が、風の音や犬の鳴き声を表しているようだ。パートごとに分担して情景を表しているのだな。 S：第3楽章は、独奏と合奏が交互に表れる形式で速度も速いから、第1楽章の小鳥が春を喜ぶイメージが姿を変えて再現されているように感じるな。 S：確かに、楽章ごとに速度や形式の対比があり、強弱や音色の変化も重なって、春の様々な場面を表現しているな。作曲者は、音楽の要素を変化させることで、イメージも変化させているのだな。	○知覚したことと感受したことを関連付けて考えられるように、曲から感じ取ったイメージや情景は音や音楽のどこから生み出されているかを問いかける。 ○知覚した音楽の特徴と感受した情景やイメージとの関わりについて実感を伴って確認できるように、気になる箇所は何度も聴き返しながら話し合うよう促す。 ◆評価項目（思●） ワークシートの記述内容から、『春』の音色、旋律、形式など、音楽を形づくっている要素や要素同士の関わりを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取るとともに、それらを関連付け、作曲者が曲に込めた工夫について考えていること」を評価する。
4 本時のめあてに対するまとめを確認し、学習内容の振り返りをする。（10分） 【★保存・提出】 <まとめ>作曲者の工夫とは 作曲者は、強弱や音色などの音楽を特徴付けている要素に変化を付けたり、形式を繰り返したりすることで、各楽章の様々な場面や情景を豊かに表現している。 <振り返り> S：音楽から何かを感じ取ったとき、音に込められた作曲者の工夫を探りながら聴くととても面白く、音楽の鑑賞の仕方が分かった。鑑賞して分かったことや「春」の面白さをまだ聴いたことがない人に伝えたい。他の季節の曲も、どんな工夫が仕掛けてあるか見付けながら聴いてみたい。	○多様な感じ取り方を共有・共感することができるように、各グループでまとめた考えを提示しながら、全楽章を通して再鑑賞するよう促す。 【★一覧表示】 ○学習内容を振り返り、全楽章を通じたよさや美しさを再確認することができるように、それぞれの楽章を比較しながら追求することができたことを称賛する。